

アミーぬまづ

代表：根上 茂美

「地域女性史作り講座（女性史を作ってみよう）」

実施日時：平成24年8月11日、25日、9月8日、15日（土）13:00～15:30

実施場所：長泉町 ベルフォーレ・南部地区センター 他

参加者：延50人

連携・協働団体：ネットワークながいずみ 清水町女性史を学ぶ会

後援：沼津市 長泉町 清水町

1. 事業目的

地域女性史については緒に就いたばかりの沼津市、これから始める長泉町・清水町が協力しながら、地域性、風土に根ざした先人の暮らしを聞き書きすることで、現在の私たちに繋がる女性の暮らし、歴史を認識する。

また、商圈、通婚圏を一にしていることや、近隣であっても風習などの違いがあることなどの発見に結び付けば、お互いの深い理解にも繋がると考える。

2. 事業内容

■静岡県東部（沼津市・清水町・長泉町）の1市2町地域女性史作りのための講座全4回

第1回 8月11日（土）13:00～15:30

講師：大村洋子さん（三島女性史サークル）「地域女性史作りの実践から得たこと」

開催地：長泉町 ベルフォーレ

第2～4回 8月25日、9月8日、15日（土）13:00～15:30

講師：平井和子さん（女性史研究者）「地域女性史をつくる意味・意義」

「地域女性史の作り方」

開催地：長泉町 南部地区センター

■女性史聞き書き取材の実践

9月以降、各地域で実際に聞き書き取材を行った。

3. 事業の実績

第1回 参加者：20人

第2回～4回 参加者：延50人

女性史聞き書き取材：長泉町3編、清水町1編、沼津市2編の取材を行うことができた。

4. 事業の効果

沼津市・長泉町・清水町の地域女性史に関心のある女性が一堂に集まって、地域女性史作りについて学び、協力しながら、地域性、風土に根ざした先人の暮らしを聞き書きすることで、現在の私たちに繋がる女性の暮らし、歴史を認識することができた。

また、商圈、通婚圏を一にしていることや、近隣であっても街の成り立ちや風習などの違いがあることなどが分かり、お互いの深い理解にも繋がった。

「地域女性史作りで得たもの」

講師 大村洋子さん（みしま女性史サークル）

8/11(土)13:30~15:30 ベルフォーレ長泉

三島における地域女性史作りの経緯など。最初は行政と協働して、取材先も市広報紙で募集した。巻を重ねて女性史サークルとして独り立ちした。最初の頃は平井先生に添削してもらおうと、原稿が真っ赤になって返ってきた。静岡新聞社から今までの女性史を合本として出版し、すべて売り切った。最新巻では、男性の話も聞き書きしているが、平井先生からは「その男性が、妻や地域の女性とどう関わってきたかを明らかにするジェンダーの視点を持たないと、単なる地域史になってしまう」と、指導された。

参加者からは「取材対象をどう見つけたら良いか」という質問が出された。

伊豆市からの参加者からは「今のうちに聞いておかないと、聞けなくなってしまう話がたくさんありそうだが、まずは仲間作りから始めなければならない」という感想も出た。



会場の様子

地域女性史研究入門講座

講師 平井和子さん（女性史研究者・一橋大学大学院）

8/25(土)・9/8(土)・9/15(土)13:30~15:30

長泉町南部地区センター

VOL1. なぜ地域女性史か？

1970年代前半の女性史ブーム

- ① 「ふつうの女たちの歴史が知りたい」
- ② 中央のエリートではなく「地方の底辺女性」の歴史を明らかにしたい
- ③ 「なぜ母達は戦争を担ったか」

★共通の合い言葉— “ここに生き、住み、働き、学び、闘って、ここを変える” 女性史

★記録されてこなかった女達の歴史を知るためには“オーラル・ヒストリー”(聞き書き)が必須。

- ・敗戦の受け止め方の男女差、世代差。
- ・女性参政権への男性の態度 等、聞き書きのポイントを学んだ。

VOL2. 沼津市・長泉町・清水町の歴史と概要

- 1, これまでの自治体史から一男性中心的記述
- 2, 女性史作りのポイントと考えられる点
- 3, 石油コンビナート進出阻止運動（女性達の果たした役割）
- 4, 沼津方式と呼ばれるリサイクルゴミ収集の取り組み
- 5, 地域ごとの特徴と女性の生活
- 6, 長泉町はなぜ全国でも稀な「子育てしやすい街」となったか。

この回では、石油コンビナート進出阻止運動の中で、原地区老人会女性部が念仏行列をし、医師会の車が伴走した話。長泉町での戦前からの青年団、処女会の活動が盛んだった事。また、清水町の生活改善運動など、地元の女性史研究者だからこそ聞ける話もあり、聞き書き取材先の選定のヒントとなった。

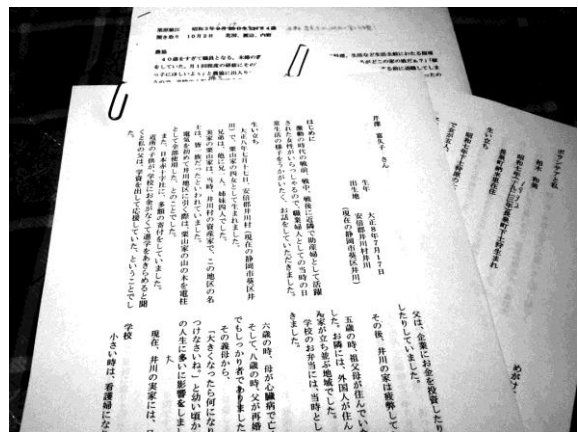
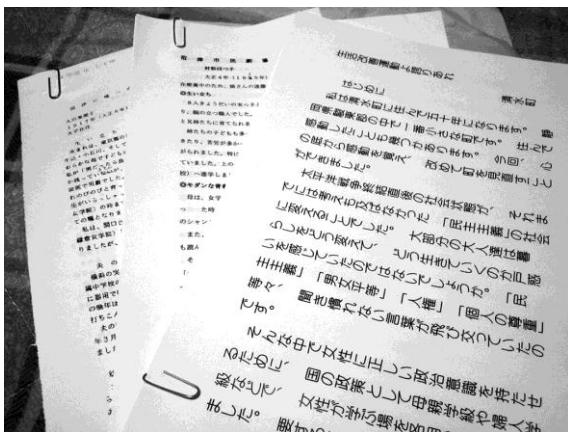
VOL.3 オーラル・ヒストリー実践 — 聞き取りの難しさと魅力

1. 聞き取り相手の選定・「出会い」
 - ① 社会福祉協議会、老人会、婦人会などの紹介
 - ② 日常や活動の中でアンテナにかかった人
2. インタビューのポイント→質問によって深くなる語り
 - ① 話者への共感と肯定の態度→一方で冷静な客観視
 - ② 戦争時代の記憶（戦争時代を直接語れる最後の世代）
3. 文章化のポイント
 - ・ タイトルや見出しに、書き手の歴史認識やジェンダー視点が現れる。
例「主人を見送って」→夫 「大東亜戦争」→太平洋戦争
 - ・ 語り手の口調・表現になるべく忠実に語りを生かす。
4. 今後長く継続するために
 - ・ 定期的な学習会を持つ。お互いの原稿を読み合ったり、聞き取りでぶつかっている問題を出し合ったりすることが重要。

★ 沼津・長泉・清水町の、これまで埋もれていた多様な女性達の人生が、今後地域の女性たちの手によって明らかになることの意義は大きい。

■ 講座修了後、各地域で聞き取り取材に取りかかり、11月末までに、長泉町3編、清水町1編、沼津市2編の原稿ができた。

■ 「地域女性史についての講座に参加するだけだと思っていたら、実際に聞き書きまですることになって、びっくりした。しかし、聞き書きをしたら、地域にこんな人がいたのだという、人と地域の見直しに繋がった」<長泉町Yさん談>



できあがった聞き書きの原稿